

平成27年度長崎水田農業確立事業成績書

課題名：水稲新品種「おてんとそだち」の現地適応性の検討

1. 展示圃の目的

水稲新品種「おてんとそだち」の現地適応性を検討する。

2. 展示圃設置場所および担当農家

長崎市神浦下大中尾町 廣山 昭作 氏

3. 耕種概要

(1) 移植期等

品種	おてんとそだち	なつほのか (比較)	ヒノヒカリ (対照)
播種期	5月20日	5月20日	5月20日
移植期	6月9日	6月9日	6月9日
栽植密度	14.71株/m ²	14.68株/m ²	15.41株/m ²
出穂期	8月26日	8月19日	8月28日
成熟期	10月8日	9月30日	10月10日

坪刈—なつほのか：9月28日、おてんとそだち・ヒノヒカリ：10月6日

(2) 施肥

肥料名	基肥 (kg/10a)	追肥 (kg/10a)	成分量(kg/10a)		
			窒素	リン酸	加里
BBLPヒノヒカリ	30	—	4.5	5.1	3.0

注) 代掻き時に全面施用

堆きゅう肥及び土づくり肥料：根っこ1番150kg/10a、イワミライト140kg/10a施用

4. 試験区の面積および区制：1区10a、反復なし

5. 調査結果

(1) 生育調査

品種名	7月16日				8月3日				9月16日			病害虫発生状況			
	草丈	茎数	葉色(SPAD)	葉色(群落)	草丈	茎数	葉色(SPAD)	葉色(群落)	稈長	穂長	穂数	葉いもち	穂いもち	紋枯病	ごま葉枯
おてんとそだち	45.0	21.8	41.6	4.9	73.2	21.5	45.7	5.2	74.6	17.7	24.1	無	無	小	無
なつほのか(比較)	55.5	25.0	42.3	4.9	87.2	26.3	43.8	4.8	81.8	19.7	26.2	微	微	小	微
ヒノヒカリ(対照)	43.9	20.0	40.6	4.9	78.2	21.7	42.9	5.2	92.4	18.0	21.7	微	微	微	無

(2) 収穫物調査

品種名	わら重	籾重	籾/わら比	千粒重	精玄米重	検査等級	g、kg/10a
							格落要因
おてんとそだち	653	818	1.25	22.8	615(115)	1等下	—
なつほのか(比較)	771	786	1.02	25.3	620(116)	2等上	青未熟
ヒノヒカリ(対照)	704	709	1.01	23.6	534(100)	1・下～2・上	—

※精玄米重・千粒重は、粒厚1.8mm以上、水分15%換算。()はヒノヒカリ対比

(3)食味試験結果

標準：ヒノヒカリ サンプル数： 2 パネル数： 13 実施日 H27. 11. 18

サンプル名	総合評価		外観		香り		味		粘り		硬さ	
	平均値	判定	平均値	判定	平均値	判定	平均値	判定	平均値	判定	平均値	判定
おてんとそだち	0.417	*	0.538	***	0.308	*	0.231	-	0.333	-	0.583	-
なつほのか(比較)	1.000	***	0.692	***	0.231	-	0.308	-	0.583	*	0.250	-
ヒノヒカリ(基準米)	0.000	-	0.000	-	0.000	-	0.000	-	0.000	-	0.000	-

※*、**、***は、それぞれ5%、1%及び0.1%水準で有意であることを示す。

6. 結果の概要及び考察

「おてんとそだち」は、「ヒノヒカリ」に比べて以下の結果となった。

- ・ 出穂期・成熟期とも2日程度早くなった。
- ・ 草丈、茎数は同程度で、葉色は高く推移した。
- ・ 穂数は若干多くなった。
- ・ 稈長は18cm弱低く、穂長は同程度となった。
- ・ 玄米重は「ヒノヒカリ」対比115%と多収となった。
- ・ 千粒重は軽いが、粒の揃いが良好であり、玄米の充実が良く、外観品質(検査等級)は1ランク上で1等格付けと良好であった。
- ・ 病害虫の発生は少なかった。
- ・ 食味試験の結果、「ヒノヒカリ」より優れる結果が得られた。

以上の結果より、高温耐性を有し、短稈で耐倒伏性に優れ、外観品質及び食味が良好な本品種は、長崎地域において普及性が高いと思われる。

但し、あまりにも栽培特性が良いことから、施肥量過多による食味低下をきたす恐れがあるので、普及拡大を図るためには適正な施肥量及び施肥体系を徹底することが重要と考える。

なお、参考に比較品種として高温耐性新品種「なつたほのか」の現地適応性を検討したが、「ヒノヒカリ」に比べて出穂期で9日、成熟期で10日早く、玄米重が16%重い結果となった。食味についても優れる結果となった。

本年は生育前半が低温・寡照で平年より3日程度生育が遅れた年であった。そのような中、標高110mの試験圃場においても、9月末までに成熟期を迎えたことから、6月中旬移植の平坦地を中心に長崎西彼地域では9月下旬の収穫が十分見込まれる。

温州みかんと労力競合が避けられることから、長崎西彼地域での普及性は高いと思われる。

但し、達観ではあるが、いもち病・紋枯病が発生しやすく、遅れ穂が多い点については留意する必要があると思われる。